

(別添)

食料価格高騰に関する総理書簡の概要  
(バン国連事務総長、ゼーリック世界銀行総裁宛)

1. 食料価格の高騰は差し迫った深刻な世界的課題である。飢餓や栄養失調の脅威が増大し、社会不安も生じている。
2. G8議長として私は、強い切迫感をもって、この問題を7月の北海道洞爺湖サミットの議題としなければならないと決意している。G8として力強いメッセージを共同で発出できるよう各国と協議していく。
3. この問題の重要性は既にG8開発大臣会合、G7財務大臣会合、世界銀行・IMF合同開発委員会等で強調されており、貴方（バン事務総長、ゼーリック総裁）やシーランWFP事務局長から出された緊急のメッセージが我々に届いている。ブラウン英首相からも私宛に本件に関する書簡が届いている。
4. 私は、貴国際機関のこれまでの取組に対し、謝意を改めて表明するとともに、G8が洞爺湖サミットに向けて対策を検討できるよう更なるインプットを要請する。
5. 食料価格の問題は多面的なものであり、幅広い対応策と考慮が必要である。短期的には、世銀、WFP、FAO等が共同で実施している各国個別の詳細なニーズ評価の結果が出来る限り早く共有されるべき。また、緊急支援、最貧困層に対する社会的セーフティーネット支援、IMFによる国際収支支援等の緊急のニーズに応えるための手段が遅滞なく導入されるべき。更に、食料輸出国による輸出規制は回避されるべきであり、より厳しいルールが導入されるべき。
6. 貿易、バイオ燃料、食料生産性の改善といった長期的な課題については、気候変動に対する適応の問題を考慮しつつ、対策の検討を加速することが必要。数多くの機関がこれらの問題に取り組んでいるが、洞爺湖サミットにおけるG8の対応を促進するよう、関連機関の取組が統合される必要がある。
7. この問題の緊急性を踏まえ、日本は、TICADIVをはじめ、既に予定されている国際会議の場を活用する考え。

(了)